

社会参加に向けて必要な力

活動先：NPO 法人 エンドゴール

1. はじめに

サービスマーケティングクラスに所属し、エンドゴールで活動させていただいたことで、学外の方々との出会い貴重な経験をする事ができた。地域に出て自分の体で体験ができたことは、自分の中で生きた情報となり、進路についても考えを深めるきっかけを与えてくれた。社会にでるまでにまだ余裕のある2年生と言う時期に、時間を割き様々な経験をさせていただいた方々に感謝をしたい。

活動させていただく中で、現在の日本の雇用情勢や社会が私たちに求めていること、これからの社会に必要な力などについて、理事長の大久保さんから教えていただいた。今の自分を見つめ直したとき、社会にでたときに必要な力が身につけていないので、今からその力を身につけていく必要があるのではないかと感じた。

2. 活動内容

8月には、エンドゴールの平日勉強会や大久保さんのトークライブなどに参加させていただいた。日本の雇用情勢や社会が求めている力、目標を設定するためにどうしていくか、知ることができた。

9月には、愛知県のNPO法人が集まって開催された「愛・フェス」に向けて一緒に活動する名古屋の専門学校学生と企画の打ち合わせをした。これは2日間開催され、全員がコスプレをして、エンドゴールの活動や知多半島、知多ミルクのPRと物産販売を行った。エンドゴールから与えられた目標と、自分で設定した目標に対し取り組み活動をした。

3. 活動を通しての気づき、成長

(1) 学外の方たちと関わる

平日勉強会やトークライブ、愛フェスには学生から社会人まで幅広い年齢の人がエンドゴールでの活動をきっかけとして参加していた。平日勉強会やトークライブでは主に就職についてグループごとにディスカッションを行う機会があり、学外の年齢の異なる人の話を聴くことは、自分の知らないことばかりでとても刺激的だった。これまで学外の人と話し合う機会はほとんどなかったが、このような集まりに参加することでこれまで知らなかった情報を知り事ができ、貴重な機会であった。

今後は学内にとどまらず、学外にも積極的に足を運んで様々な人と関わっていきたい。

4. 活動を通して見えてきた社会課題

エンドゴールの活動では、大久保さんから現在の日本の雇用情勢について教えていただく機会があり、愛知県の有効求人倍率 0.43 が象徴している雇用情勢の悪化に驚かされた。

愛知県は21年6月、有効求人倍率が過去最低の0.43を記録し、翌月の7月からは回復傾向にあり11月には0.55まで上昇したが、20年11月と比較し、マイナス0.80であり、依然として一人あたりの求人数が足りない状況が続いている。

製造業での求人が減少し、福祉職の人手不足が叫ばれる中で、実際にどのようなことが起こっているのだろうか。愛知県の自動車関連の求人倍率は0.09と大幅に減少する一方で、福祉職の求人倍率は2.06と大きな差がある。2009年、福祉職は雇用の受け皿として期待され、注目を浴びてきた。しかし福祉職は対人援助であり、確かな知識と技術が必要とされ、個人の向き・不向きも大きく影響してくる仕事ではないかと思う。安易に福祉職に転職するのは、様々な壁に突き当たるのではないかという印象を持った。

福祉職への転職の現状として、求人倍率は高いが、労働条件や勤務時間をよく知らずに応募する求職者も多く、ミスマッチが起きているという。就職するためには資格取得が必要であり、さらに所得するためには数か月の期間が必要となってくるが、そのような時間が取れないという現状もある。ホームヘルパー資格を取得しても年齢や未経験を理由に就職できないという人もいる。また実際に就職しても仕事が厳しく、離職する人も目立っている。

このような雇用のミスマッチを解消するために、地域の人材センターでは福祉職を10日間経験する職業実習を行っている。福祉職への転職を考えている求職者が実際に現場を体験することで、仕事内容を知る良いきっかけとなっていると思う。福祉職の人手不足と雇用情勢の悪化が問題とされる中で、このような体験プログラムを取り入れることで、よるスムーズの雇用のミスマッチが解消されていくのではないかと思う。

5. 最後に

今回の活動を通し、実際の社会に出たときの自分の力不足をととても感じ、現在の自分を見つめ直すことができたのが、大きな収穫であった。このように自分を見つめ直す機会がもてなければ、社会に出てから大きな壁に当たっていたのではないかと思う。社会に出る前に、基本的に必要とされることが何なのか気付くことができ、改善できる機会を持つことができたことも、良かった。